

IT導入補助金が デジタル化・AI導入補助金2026に変わった 申請締切前に確認すべき制度変更の3点

2026年10月3日発行 / dnd-inc.jp/blog/digital-ai-hojo-2026-sme-guide.html

制度変更の概要

2026年度から「IT導入補助金」が「デジタル化・AI導入補助金2026」へ改称・制度変更されました。AI活用ツールが補助対象に明示され、補助額は最大450万円（補助率1/2）。10月30日（予定）を締切とする申請枠が現在受け付け中です。

中小企業への3つの影響

影響① 今年度の申請機会がまだある

6次締切（10月30日予定）が残っています。事前登録と登録済みITベンダー・ツールとの連携が必要なため、余裕を持って準備してください。

影響② AI関連ツールも補助対象になりやすくなった

文章生成・データ分析・画像認識など、AIを主な機能とするツールも登録ベンダーが増加。公式サイト（<https://it-shien.smrj.go.jp/>）のITツール検索で確認できます。

影響③ 2回目以降は賃上げ要件の確認が必要

旧IT導入補助金を含む過去採択実績がある場合、公募要領の「再申請にかかる要件」を確認してください。

申請前に自社で確認すべき5点

#	確認すること	確認できなかった場合の影響
1	中小企業・小規模事業者の要件（従業員数・資本金）を満たすか	申請対象外になる場合がある
2	導入したいITツールが補助金の登録ツールリストにあるか	補助対象外の支出になる
3	ツール提供ベンダーが登録ベンダーかどうか	補助金を通じた申請手続きができない
4	過去に同制度（旧IT導入補助金含む）を利用したことがあるか	2回目以降は賃上げ要件の確認が必要
5	補助金の支払いが後払いであることを踏まえた資金繰りを確認しているか	採択後の支出に資金繰りが影響する場合がある

活用の進め方

まず「何を変えたいか」を整理する

- ・毎月、手作業で繰り返している業務はどれか
- ・担当者が変わると品質が下がる・引き継ぎに時間がかかる業務はどれか
- ・データ集計・分析のために別システムからの転記をしている業務はあるか
- ・AIを使えば自動化できそうな判断・チェック作業はあるか

小さく始めて、段階的に広げる

1. 1つの業務を選ぶ：手作業が多く、スキルや経験に依存している業務を1つ選ぶ。
2. 登録ツール・受託開発のどちらが合うかを確認する。補助金対象ツールがある場合はそちらを優先。

3. 3ヶ月動かして評価し、次のステップを決める。

株式会社DnDにできること

補助金申請の代行は行っておりませんが、「自社に何が必要か」の整理から業務システム・AI組み込みの開発まで一貫してサポートします。「何から始めればよいか分からない」という段階からご相談ください。

無料相談：<https://dnd-inc.jp/contact.html>

出典：中小機構「デジタル化・AI導入補助金（旧 IT導入補助金）のご案内」（seisansei.smrj.go.jp）／デジタル化・AI導入補助金2026 公式サイト（it-shien.smrj.go.jp）2026年10月3日確認